

## 実践記録（小1・生活）

### 1 ねらい

イメージマップを作成する活動を通して、自分の意見を持ち、それを基に友達と意見を伝え合うことができるようにする。

### 2 手立て

- 自由にイメージを書き込む工夫

思考ツール（自分の考えや思考を図として視覚化することができるツール）の一つである「イメージマップ」と、思考ルーチン（対象の理解を深めるために、単純で少ない数のステップの思考の道筋だけに集中させる仕組み）の一つである「見える・思う・ひっかかる（See・Think・Wonder）」を取り入れたワークシートを使用することで、発問やテーマに対して、児童がイメージしたことを自由に書き込むことができるようにする。

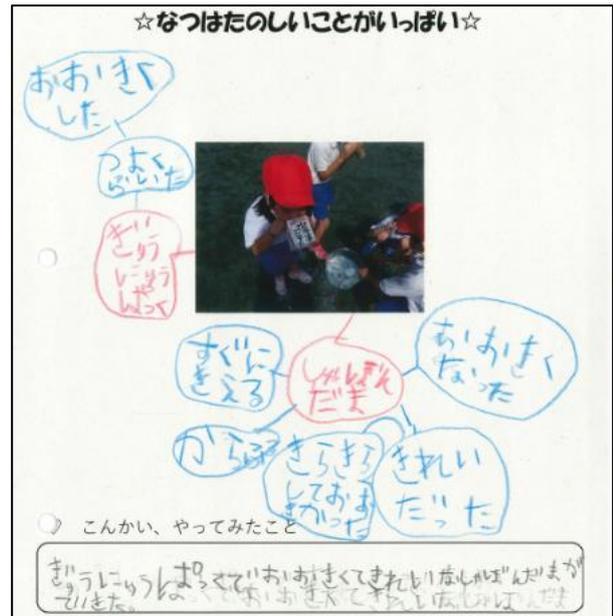
- イメージマップから意見をまとめ、友達に伝える工夫  
イメージマップの中から言葉を選び、活動についての意見をまとめる。また、意見とその根拠となるイメージマップの両方が書かれているワークシートを児童間で共有することで、意見を伝え合うことができるようにする。

### 3 実践の様子

児童が持参した材料を使って、第1時にシャボン玉遊びをした。その際、工夫して作った道具を使って、児童がシャボン玉遊びをする様子を撮影した。

第2時では、第1時に撮影した写真を見ながらイメージマップ【資料1】を作成した。

第3時には、第2時に作成したイメージマップを基に、そこに書き込まれた言葉を選んで「シャボン玉遊びをどのように遊んだか」について意見をまとめた。その後、友達とワークシートを交換することで意見を伝え合う活動を行った。「この材料で吹いた時、どんな感じで泡が出た？」や「こんなこともあったね。これも面白かったね。」と、その時の様子を伝え合う様子が見られた。【資料2】



【資料1 児童が作成したワークシート】



【資料2 児童が意見を伝え合う様子】

### 4 成果と課題

- イメージマップを用いたワークシートを使用したことで、自由にイメージを書き込むことができていた。
- 活動の様子を、イメージマップの言葉から選んで自分の意見としてまとめることができていた。
- シャボン玉遊びの中で起こったハプニングや出来事についてまとめている児童がおり、活動とは直接関係のないことを意見としてまとめている児童も見られた。